

舵輪

第163号
2020年 秋 発行



舵輪は(公財)伏木富山港・海王丸財団の機関誌です

退任の挨拶

海事課主任 二等航海士
宮谷 徳世 (みやたに のりよ)

この度、9月末日で当財団を去り、海技教育機構へ戻ることになりました。

この夏は例年実施している総帆展帆や海洋教室等に加えて、海王丸建造90周年・一般公開30周年のイベントも企画され、昨年以上に忙しく、

しかし充実したものになるのだろうと考えていた春先に、今では当然のように側に居る新型コロナウイルス感染症が流行し始めました。バタバタとイベントや仕事に追われながら、それでもこの富山での日々は暖かい人たちに囲まれた楽しいものでした。なんて挨拶も考えていたのですが、フタを開けてみればとても静かな夏を過ごすことになりました。ひたすら室内でパソコンと向かい合い、会えるはずだった人たちとは顔を合わせる事もできず、ひっそりと去ることになりとても残念に思っています。寂しい最後となりましたが、ここへ来たばかりの頃に財団の方々やボランティアの方々に暖かく迎えていただき、楽しい思い出ができたことは確かな事実です。またいつかお会いできる事を楽しみにしています。



着任の挨拶

海事課主任 二等航海士
熊谷 慧 (くまがい けい)

10月1日付で海事課主任に着任いたしました熊谷慧と申します。出身は静岡県で実家は富士山の裾野、標高900mにあります。

小さい頃から船員を志し、弓削商船高専及び東京海洋大学に進学、2013年より航海訓練所（現海技教育機構）にて勤務をしておりました。

海王丸財団着任前は海王丸Ⅱ世に乗船しておりました。富山県はおよそ10年ぶりです（青雲丸実習生の時に海王丸の向かいの岸壁に着岸し総帆展帆にボランティアとして参加いたしました）。また、2年前までは横浜の帆船日本丸記念財団にて勤務をしており、もしかしたら日本丸の総帆展帆でお会いした方がいらっしゃるかもしれません。

余談ですが、私は以前スイカが苦手だったのですが、海王丸ボランティア有志の皆様にご贈っていただいた「入善ジャンボスイカ」が本当に美味しくそれ以来スイカが大好きになり嫌いな食べ物が無くなりました。その節は大変お世話になりました。

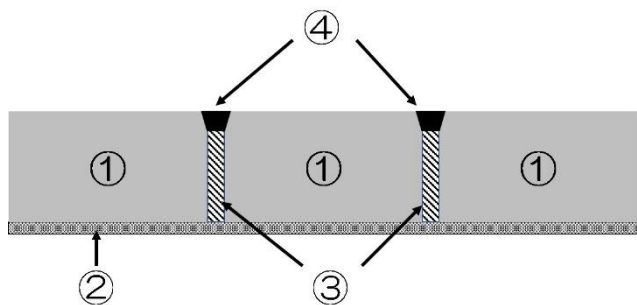
横浜での勤務を経験しているものの、気持ちは新入社員と同様、驕ることなく学ぶ姿勢



を忘れず努めてまいります。またコロナ禍にある現在、総帆展帆をはじめとした多くのイベントが中止となり、皆様とお会いする機会を作ることもなかなかできない状況です（早くデッキ上にて大声で操帆作業をしたいです）。この状況だからこそできるベストを尽くし、精一杯務めあげる所存です。何卒皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

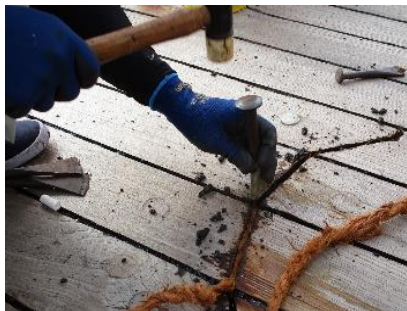
密着 ～ピッチ流し工事实施～

海王丸では毎年区画を変え、ピッチ工事が行われています。今年は、長船尾楼甲板の工事が行われました。ピッチとは、木甲板のチーク材の隙間にある黒い目地で、木材の隙間をしっかりと埋め浸水を防ぎます。木甲板は下の図のような構造になっています。



- ① 木甲板 Deck plank
- ② 鋼甲板 Deck plate
- ③ ホーコン（オークム） Oakum
- ④ ピッチ Pitch

工事ではまず、古くなったピッチを取り除く作業から始まります。ピッチの下にはホーコンと呼ばれる繊維が固く詰められています。ホーコンは檜の皮を蒸して叩き燃ったものを使用します（異なった材質のものを使用することもあります）。ホーコンが痛んでいたり少ない場合にはホーコンを締め直します（ホーコンを詰めて叩きいれます）



<写真①>

<写真①>

次に温めて柔らかくしたピッチを流し込みます。温めるのには専用の窯を使用します。燃料はなんと薪です。業者の方曰く、薪の炎が最も温度調整に



<写真②>

適しているそうです。この温度調整が非常に大切で、温めすぎるとピッチに気泡が入ってしまい、流し込んだ際に空洞ができてしまいますが、逆に冷たすぎると流し込むのに時間を要してしまいます。そのため、窯の前ですっと担当

の職人さんが絶妙な火力を維持しています。

<写真②>

温められたピッチは、専用の器具で流し込み、固まったら余分な部分を削り取ります。

<写真③>



<写真③>

削り取った際に気泡がある場合には、専用のコテを温めてピッチを溶かし気泡を埋めます。

<写真④>

このようにしてピッチ工事は進み、木甲板の水密は保たれているのです。



<写真④>

本船へお越しの際には、職人の皆さんの高度な技術によって施工されたピッチも見ただけであればと思います。<写真⑤>



<写真⑤>

特集 ～海事課の業務～

海王丸船内には、様々な設備があります。海事課では、海王丸保存のために数多くの整備作業を実施しています。

船は1隻が小さな社会と同じです。例えば水一つとっても、上水道があれば下水道もあります。今回はその下水道の1つである雑用排水タンクの清掃作業について特集します。

当タンクは、シャワールームや手洗い場といった通常の生活排水が流れ込むタンクです（トイレの排水：汚水は汚水処理装置という別の機械に流れ込みます）。このタンクで一度生活排水を貯め、一定量貯まったところで排出ポンプを使用して船外へ排出します（海王丸では陸上の下水管に繋がっています）。

今回実施した整備作業では、休館日にマンホールを開放し、職員が中に入って清掃作業を行いました。作業前には、手洗い場などの使用禁止表示を行い、ポンプでタンク内の残水を排出します。その後マンホールを開放、換気を十分に行い、酸素濃度等の確認を実施します。安全が確認された後に、作業員として田原甲板員及び濱見甲板員がタンク内へ入りました。

清掃後に内部の状況を確認し、必要に応じて整備を行います。今回は特に問題のある箇所はありませんでした。

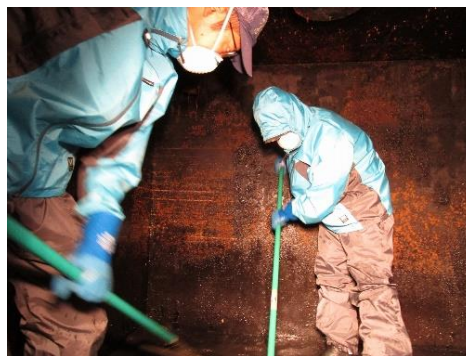


＜作業の様子＞

状況に応じて、内部の錆を落とし、塗装作業をすることもあります。点検後にマンホールをしっかりと閉鎖し、漲水します。その際にポンプの自動発停や警報の作動状況を確認します。問題が無いことを確認したら作業完了です。

生活排水ラインや汚水ラインの整備作業は大変ですが、船を維持管理していくうえでとても大切な作業です。海事課では、このように普段は人目につかない設備の整備作業も実施しています。

今後も不定期ですが海事課の業務について紹介できればと考えております。



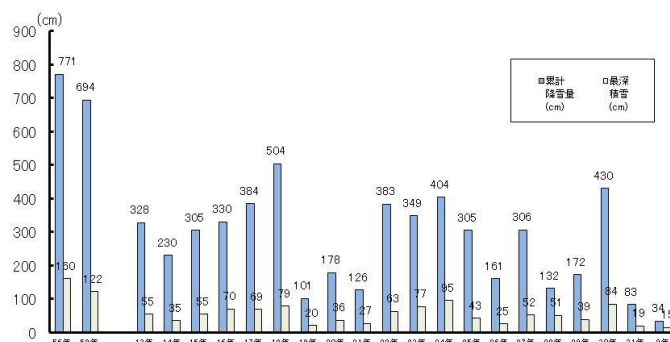
＜タンク内部で奮闘した田原甲板員(左)と濱見甲板員(右)＞

2020年の積雪は・・・

10月9日気象庁は「夏からラニーニャ現象が発生し、冬まで続く可能性が高い」と発表しました。ラニーニャ現象とは、「太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より低い状態が続く現象」のことです。ラニーニャ現象が発生すると一般的には、冬季は冬型の気圧配置（西高東低）が強まり、気温が低くなる傾向があるようです。

練習船では冬季遠洋航海において帆走を行う際には、西から次々と来る低気圧に吹き込む風の力を受けて、ハワイへ前に進んでいきます。俗にいう「爆弾低気圧」の場合、日本の東へ抜けた後にさらに勢力を増し、低気圧の中心から遠く離れた場所（北緯30度前後）においても相当の風とそれに伴う高い波浪を引き起こします。自然の脅威をまさに身をもって実感します。

太平洋上から富山県に目を移します。富山地方気象台の発表した記録によると、富山市の一昨年（2018年）の累計降雪量は83cmで最深積雪は19cm、昨年（2019年）の累計降雪量はなんと34cmで最深積雪は15cmだったとのことです。



積雪量グラフ（富山県 HP より引用）

1990年～2019年にかけての累計積雪量の平均値が266cmとのことで、如何に降雪が少なかったか読み取れます。海事課の職員は1～2年おきに交代をしているため、雪国富山のイメ

ージを持って着任したにもかかわらず、拍子抜けして退任していくといった者もいたようです。

富山県出身の当財団の職員や、報道では「今年は降る！」と話しております。ちなみに前回のラニーニャ現象はH29年秋～H30年春に発生しております。富山県や近隣の北陸地方にお住いのボランティアの皆様も同様に「今年は降る！」という予感がありますでしょうか。大きな積雪となった場合に備えて、早めのスノータイヤへの交換、雪かき用具の準備などをしていきたいものです。

雪の降らない地方出身の海事課職員は、雪のある生活に不安を抱きつつも、雪国らしい富山県の姿（特に真っ白な立山連峰）をひそかに楽しみにしています。

すでに朝晩の冷え込みで気温が1桁の日も増えてきました。新型コロナウイルスの影響に加え、インフルエンザの流行も懸念されます。しっかりと予防をして、来年皆様と元気にお会いできる日を楽しみにしております。

お知らせ

1 今年度のボランティア活動について

- ① 総帆展帆
全て中止となりました。
- ② ボランティアの集い
11月29日（日）に予定しておりましたボランティアの集いは、年度末に延期いたします。また規模を縮小しての実施を検討し、皆様に来年度の予定などについてお知らせする機会を設けることといたします。
- ③ 餅つき
中止といたします。

海王丸のメインイベントの一つである総帆展帆も今年度は一度も実施することなく冬を迎えることとなりました。

新型コロナウイルスは、今もなお世界中で

猛威を振るっている状況です。我が国ではGOTOキャンペーンの実施など、経済活動再開を試み、当財団におきましても来場者数等が回復傾向にあります。

しかしながら、感染防止にかかる対策などは「三密の回避」など、緊急事態宣言が発表されたさいと基本的には何も変わらない状況が続いております。当財団にて実施するボランティア活動における感染防止対策について、現時点で決め手となる具体的な方策も無く、その実施は困難な状況が続いております。誠に残念ではございますが、何卒、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2 帆走艦装整備工事について

11月7日より、帆走艦装整備工事が開始されました。同27日まで実施をいたします。公開再開は28日（土）からとなります。化粧直しをした海王丸へぜひお越しください。

3 カレンダーについて

舵輪をお送りしている皆様へ、来年のカレンダーの配布を予定しております。同封の返信用葉書にてご希望の枚数をお知らせ下さい。お一人様3枚までとさせていただきます。但し、勤務先への配布等でカレンダーの追加をご希望される方は海事課までご連絡ください。

編集後記

私事ですが、先日テレビを片付けました。着任して使用したのは「倍返しだ」で有名な某人気ドラマの最終回のみで、その代わりに新しく購入したラジオで毎日FM放送を聞いております。私の好きな番組でラジオパーソナリティの方が番組の終わりに話す台詞で今回は締めたいと思います。

「戸締り用心、火の用心

手洗いうがい、思いやりも忘れずに。」

（くま）

舵輪 第163号
発行日 2020年11月
E-mail
by-the-wind@
kaiwomaru.jp

公益財団法人 伏木富山港・海王丸財団
〒934-0023 富山県射水市海王町8番地
TEL 0766-82-5181
FAX 0766-82-5197
URL <http://www.kaiwomaru.jp>